

平成29年度第5回和田区地域協議会 次 第

日時：平成29年11月9日（木）

午後6時30分～

会場：ラーバンセンター 第2・3研修室

1 開 会

2 議題等の確認

3 議題

（1）地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて

（2）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について

4 事務連絡

5 閉 会

地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて

1. 募集要項について

NO.	意見内容
1	現状で良いと思う。(市橋委員)
2	募集期間を7～10日間、審査採択を4月中旬にして、採択された事業が早期に着手できるようにする。募集要項には、二次募集についても明記する。(土屋委員)
3	複数年度をかけて一つの事業を継続して行う場合(※)は、提案書に複数年度にわたる全体計画を、実績報告書に進捗状況を、それぞれ記載する。(橋本副会長) ※この場合でも、補助金は単年度ごとに交付となります
4	【P1 上段部分】 目的を明確にするため、 「それぞれの地域の <u>活力を向上するため</u> 」を 「それぞれの地域の <u>活力向上を目的として</u> 」にする。(橋本副会長)
5	【P3 「審査基準」(ウ) 審査項目に基づく審査②必要性】 その事業が、地域の実情や住民要望に対応したものである場合、それが分かるように提案書に記載する、または住民からの要望書の写しを提案書に添付する。 (橋本副会長)

2. 審査採択の基本的なルールについて

NO.	意見内容
1	現状で良いと思う。(市橋委員) 現行ルールで可。(土屋委員)
2	【基本審査・優先採択審査】 基本審査で「適合しない」とした委員、優先採択審査で「該当しない」とした委員は、可能な場合は、参考のためその理由を他の委員に説明する。(橋本副会長)
3	【共通審査】 配点を各5点満点から、各3点満点にする。(橋本副会長)

3. 制度上の制約があるもの

NO.	意見	制度上の制約
1	<p>提案～事業採択～事業着手を早く行うために、募集要項の配布を早める。</p> <p>(土屋委員)</p> <p>※1 ページ目の「1. ②」に関連</p>	<p>募集要項は毎年、3月末に市議会が新年度予算を議決した直後、広報上越4月1日号と合わせて和田区の全世帯へ配布しています。</p> <p>新年度予算の成立前に募集を開始することはできないため、これ以上募集要項の配布を早めることはできません。</p> <p>なお、地域協議会日より3月1日号に、予算成立を前提に地域活動支援事業の事前相談を受け付ける内容を掲載し、団体が提案書を早く作成できるようにしています。</p>

【雪を生かした地域づくりの推進について】

第4回地域協議会意見概要

資料No.2

1. 感想

【A:感想】

- ①素晴らしいと思った。
- ②非常に立派な施設を見せてもらった。

【B:雪の貯蔵】

- ①8月に、雪が溶けきらずに残っていることに驚いた。
- ②貯蔵倉庫の中にあの時期にあれだけの雪がほとんど減らずに貯蔵されていて、雪はかなり持つのだなということを実感し驚いた。
- ③雪を倉庫にためて冷蔵庫代わりに使うということが、それを見学し初めて理解できた。

【C:食品の貯蔵】

- ①低温貯蔵により食品の味が良くなるということに、非常に興味を持った。
- ②コーヒーが、特に味が顕著に変わるという話は聞き知っていたので、実際に飲んでみる機会があればよいと思う。
- ③雪室で熟成した野菜などを利用し、この地域の人たちにより興味を持ってもらうような方向がよい。

【D:効果】

- ①利雪について勉強し、雪国における雪のメリットを考えれば、それなりに効果はあると思う。

【F:地域活性化】

- ①雪室で地域をにぎやかにしたいなら、最初から大きなお金を使い建物を建てるのではなく、何か他にもう少し知恵を出してはどうか。

【G:方向性】

- ①利雪より、イベントやレクリエーションに向けた方がよいのではないかと感じた。

【H:和田区における可能性】

- ①このようなことができるのだなと、非常に参考になった。
- ②視察で話を聞き、是非この地区でもしてみたいなという気になった。
- ③われわれの所でも、考えればなんとかできるのかなと思った。
- ④それぞれの地域や家庭で雪を利用してみようというのも、一つの方法だと思う。
- ⑤雪室は小規模でもできる気がしてきた、一般家庭でもできるかなという感想を持った。
- ⑥近くの農業倉庫や空き家の倉庫を利用すれば、和田地区でも雪を貯蔵することができるのかなと期待する。

- ⑦実際にここで雪を貯蔵しようとしたら、大きな倉庫を利用すればできるし空いている場所があるのでそこで外に雪を保管することもできるとも思うが、平地で立木も何もないので、できるのか心配な面もある。
- ⑧和田地区も最近雪が少なくなってきたおり、雪の確保が難しく他の場所から運び込んで貯蔵するような形になるのではと考えている。

【I:体制】

- ①利雪は可能だと思うが、財団の立ち上げはどうだろうか。

【J:収益】

- ①同じ雪の地域なので、和田区でも同じようなものはできると思うが、収益があがるかどうか。
- ②事業収益をあげられるのか疑問で、市の補助金を充てた結果収支バランスが取れるようではどうにもならない。
- ③かなりの経費がかかると思うので、いきなりこの地区に取り入れるとすると、非常に難しい部分がある。

【K:慎重論】

- ①この地域に導入するという議論だとすれば、いろいろな障害が出てくると思う。
- ②和田地区として引き受け事業展開していくには、じっくりと時間をかける必要がある。
- ③和田地区としてこれを取り上げるということには、ずいぶん議論が必要。
- ④和田地区と安塚では、雪に対するポテンシャルが全く違い、その点でいろいろな面から検討しないと引き受け手が出ない。

2. 議論の方向性

【A:雪利用全般】

- ①和田区で取り組む場合に、雪に対して非常に難しい部分があるのではないかと。
- ②和田区の皆さんが考える雪と安塚区の皆さんが考える雪では、感覚的に違う。
- ③全国的に考えれば雪は一部地域でしか降らないし、雪を利用しようということはなかなかできない中で、和田区から上越全体に広げて発信することがあってもよい。
- ④イベント開催と雪利用を見ながら、議論を方向づけできればよい。
- ⑤和田区では、これまで雪を利用することは考えたことがなかったので、我々自身を教育することがよい。
- ⑥商業ベースという点では、雪を上手に利用していけば和田区の施設の役にも立つだろう。

【B:イベント】

(イベント全般)

- ①雪を生かした地域づくりを進めるなら、地域の活性化やイベントに生かしたい。その

場合は、地域の各種団体と意見交換をしていく中でできることを話し合い、それができるなら地域協議会として進めていこうという方向。

- ②イベントは商業ベースで考えるものもあるし、地域活性化のためのイベントもある。
- ③イベントで雪を生かすことが一番早い。雪室を作り野菜を貯蔵することは、我々の問題ではない。個人資金もないので空想になってしまう。
- ④雪にちなんだ、人が集まるイベントを考えたらよいと思う。
- ⑤イベントの中で雪室の中で保管したものを食べてもらうなど。
- ⑥イベントを開けばそこに人が集まるので、雪室貯蔵の食材を食べてもらうことをフランクに考えればよく、それにより、我々の中にノウハウが蓄積される。
- ⑦上越妙高駅前で、雪室で野菜を貯蔵できるというPRや、雪室貯蔵食品を販売しおいしいことをPRするイベントを開催することだと思う。

(オクトーバーフェスト)

- ⑧先日のオクトーバーフェストのような他のイベントに合わせ、雪で遊んでもらうという方法なら比較的簡単にできる。
- ⑨私たちが住む和田地区に、オクトーバーフェストのように広域連携を図るために利用できる施設があり、雪を絡めたイベントができた。

(灯ろうイベント)

- ⑩雪室は我々には非常に難しいので、雪を楽しむ方向で、新幹線開業の時に地域で協力して実施したようなかまくらや灯ろうのイベントを年に1回冬に開催するようなものをまず組み立て、市に協力を求める。大和倶楽部や和田地区商工会に、地域協議会がこのようなイベントを考え開催したいので、協力をお願いしたいとしたらどうか。
- ⑪和田地区振興協議会が、新幹線開業時に雪灯ろうを作るイベントを行った。雪がない時に雪を持ってくるのではなく、雪がある時に雪を利用して雪を使った雪国の遊びやイベントをする。地域協議会として、地域の団体や組織にそのようなことを提案するくらいだろう。

(釜蓋遺跡公園)

- ⑫この地域にしながら、釜蓋遺跡公園を利用することは少ない。せつかくの地域の公園なので、有効に利用できればよい。
- ⑬上越妙高駅前にある釜蓋遺跡公園は、いろいろな宣伝、集客ができれば、人が集う憩いの場になる。そこに雪をからめていけば、冬の暗いイメージの中でイベントが開くことができよい。
- ⑭市に働きかけ、釜蓋遺跡公園で「雪で遊ぼう」というイベントを計画するのがよい。
- ⑮広大な釜蓋遺跡公園を利用し運動会をすれば、新幹線に乗って来てくれる人がいるかもしれない。
- ⑯釜蓋遺跡には遺跡応援団があり、主に子どもたちを対象に春と秋に釜蓋遺跡まつりを開き、勾玉を作ったり笛を作ったりしている。その人たちに、冬まつりを開いてもらうように提案していくのもよい。
- ⑰時間をかけてでも雪をテーマに議論し、釜蓋遺跡公園に雪をからめて市へ提案することも一つ。
- ⑱安塚は、克雪、雪を資源にするということから、雪の利用へ結びついた。和田区は年々少雪でそれほど雪がないが、上越妙高駅周辺や釜蓋遺跡公園とからめて、魅力発信し

ていければよい。

【C:雪室】

(雪室全般)

- ①我々自身が何かをすることはできないので、雪室の知識をためこみ、勉強し、和田地区振興協議会などしっかりした受け皿に提案していくという流れだと思う。
- ②できないものを提案するわけにはいかないなので、勉強し、できるものを提案する。

(雪室貯蔵食品)

- ③学校教育の場、大和小や和田小の学校給食で、一年に1回か2回くらい、雪室で貯蔵した野菜を使って、味を確かめる取組をすることが重要と考える。
- ④雪で食品を貯蔵する方法は、昔から取られていた。今、それを子どもたちに伝える意味では、給食で提供することはよい考えだろう。
- ⑤上越のお茶を売るために上越らしさが必要だということで、雪室貯蔵食品として販売している。上越という雪国のイメージを利用して、商品を売るということだと思う。

(家庭の雪利用)

- ⑥大規模ではなく小規模に雪を貯蔵し冷やすことができるように工夫し、家庭でもできるような方法を研究し、みなさんから取り組んでもらうようなことを提案していけばよい。
- ⑦個人が雪を貯蔵し夏の冷房に生かすことができるのなら、その利用者に方法を聞き、和田区の地域の方にその方法をPRするのも、雪利用を進めるのに非常に有効。

(商業ベース)

- ⑧雪室は、費用対効果からしても私たちが考える部分ではないと思う。商業ベースで考える方が他にいると思う。
- ⑨雪室貯蔵食品は、宣伝としてうまく利用し他の商品も売ることも可能だと思うが、私たちが考える部分ではないと思う。
- ⑩商業ベースは、今の段階では絶対に無理。
- ⑪商業ベースで考えられればよいが、資金が必要。